

開業するまでの道のりについて
生産牧場開業

由香さんは、「何頭もいる馬の社会ができる。ボスがいて、2番目がいて。馬小屋から出すときや、エサやりのときにも、どの馬からどう



昨年に 生産牧場開業

由香さんは、町内の生産牧場で研修・実習を行い、開業へ向け準備を整えていきました。

3年間の任期が終了した後も、同じくファームヘルパーとして自営で働き、ヘルパーの仕事が休みのときは、自分がところで作業。かけ持ちをする形で仕事をしていました。

育成について

由香さんは、開業のための資金の工面で回り、牧場作業全般を行いました。

3年間の任期が終了した後も、同じくファームヘルパーとして自営で働き、ヘルパーの仕事が休みのときは、自分がところで作業。かけ持ちをする形で仕事をしていました。

た。開業のための資金の工面は苦労したが、周囲のかたが支えてくれて、いろいろなものを準備してくれたり、貸してくれたり、手伝ってくれたということがあったので開業できました。それがなければ大変なことだったと思います。」と話します。

めざす牧場は

馬を育てるうえで心がけていることについて伺うと、「大きな動物なので、やはり危険が伴う。常に気を払いながらちゃんと見ていれば事故などは防げる。無理なことはしないで、事故のないように、また、危険な馬にならないように育てていくことを心がけています。」と勝さん。

勝さんは、「頭数も増えてきたので、ゆくゆくは従業員を雇うということも考えている。経験者というよりは、今、中学生・高校生の子たちが、馬が好きだけどちょっと手が出ないなということでも、扱える馬を作つていけたらと思う。」と誰でも競走馬に携わる牧場づくりをめざしています。

生産牧場開業のための準備が整い、令和3年に岡田地区の牧場を借りて生産牧場を開業しました。

生産牧場開業のための準備が整い、令和3年に岡田地区の牧場を借り、継承することができます。



地域おこし協力隊を経て 生産牧場を開業

岡田地区で軽種馬の生産牧場を営んでいる中尾さんご夫婦。ともに東京生まれのお二人が様似町で軽種馬の生産牧場を営むまでのお話を伺いました。



中尾勝さん・由香さんご夫婦は、ともに東京生まれ。食品会社に勤務をしていましたが、平成25年に札幌に移住しました。札幌に住み始めて由香さんが乗馬体験をしたところ、馬の魅力に魅せられ、「北海道らしい仕事がしたい」と、会社を辞めて馬と関わり働く環境を探し始めました。

「探していく中で、乗馬をやつている施設なども考えたが、経験がないので難しい。牧場での仕事なら未経験でも雇ってもらえたところがあつた」と由香さん。未経験でも働けるという環境を探すことには苦労されたそうです。平成28年、勝さんが地域おこし協力隊として活動をするため様似町へ赴任。活動内容は「軽種馬振興」を目的としたもので、様似町内の各牧場

様似町に 移住するまで



遊びに来てね
中尾牧場へ、馬にふれあいに
気軽にお遊びに来てください!
事前連絡は090-1799-5598へ(中尾由香携帯電話)

